「荏原グループ 統合報告書2023」の発行にあたって

統合報告書発行責任者
執行役 CFO
経営企画・経理財務統括部長
細田 修吾

当社は、ステークホルダーの皆様との対話、説明を目的として、2015年より統合報告書を発行しています。

「荏原グループ 統合報告書2023」においては、当社グループの価値創造ストーリーについて、サステナビリティと事業のコネクティビティや、2023年を初年度とする中期経営計画「E-Plan2025」を中心に説明しています。

また、昨年掲載し反響の大きかった技術元素表に関するアップデート版や、当社のガバナンスに関し取締役会と株式市場との対話などを掲載しております。

私は、本報告書の発行に関する統括責任を担う執行役として、その作成プロセスが正当であり、かつ記載内容が正確であることを、ここに表明いたします。

本報告書を活用したステークホルダーの皆様との対話やご意見を経営に反映し、企業価値の向上を図っていきたいと考えております。

CONTENTS

価値創造の仕組み

2 荏原グループの企業倫理の枠組み
3 荏原グループの存在意義と歴史

5 価値創造ストーリー

7 荏原が社会に生み出す価値

中長期の企業価値創造

9 長期ビジョンE-Vision2030と中期経営計画E-Plan2025

11 社長メッセージ

15 CFOメッセージ
17 財務・非財務ハイライト

19 前中期経営計画E-Plan2022の振り返り

23 新中期経営計画E-Plan2025

27 E-Vision2030とE-Plan2025 非財務目標とKPI
29 気候変動に対する取り組み
31 データドリブン経営の実現を目指して

特集

33 技術戦略と技術元素表

事業戦略

37 新規事業
39 新規事業(水素・宇宙)
41 ■ 建築・産業カンパニー
43 ■ エネルギーカンパニー
45 ■ インフラカンパニー
47 ■ 環境カンパニー
49 ■ 精密・電子カンパニー

価値創造の基盤

51 人材戦略
53 研究開発・知的財産戦略
55 DX戦略
57 リスクマネジメント
59 コンプライアンス
61 環境マネジメント
63 社会に対する取り組み

65 取締役会議長とステークホルダーとの対話

67 取締役
69 取締役の略歴
71 取締役会の役割と構成
73 コーポレートガバナンス
85 執行役の略歴

コーポレートデータ

87 10か年データ
89 連結財務諸表
93 ESG 5か年データ
94 外部からの評価
95 会社情報／株式情報

荏原グループの企業倫理の枠組み

創業の精神：熱と誠

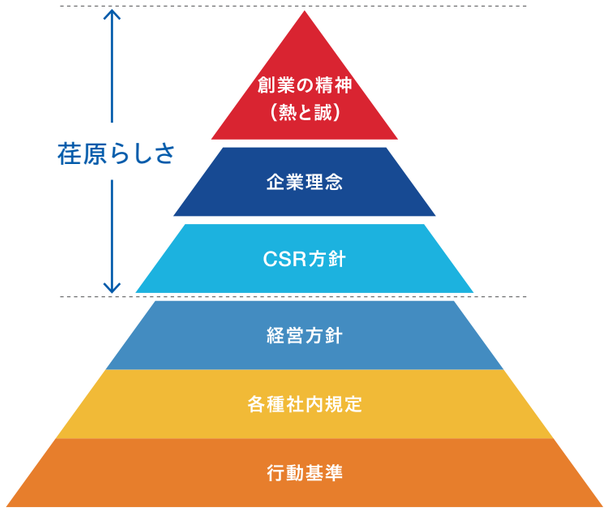
与えられた仕事をただこなすのではなく、
自ら創意工夫する熱意で取り組み、
誠心誠意これをやり遂げる心をもって仕事をすること。

企業理念

水と空気と環境の分野で、
優れた技術と最良のサービスを
提供することにより、広く社会に貢献する。

CSR方針

全ての業務を高い倫理観に基づいて実行し、
全てのステークホルダーと
良好な信頼関係を築き上げる。



編集方針

荏原グループの中長期的な価値創造について、財務 ・ 非財務の両面からお伝えすることを目的として発行しています。編集にあたっては、IFRS財団(The IFRS Foundation)による「国際統合報告フレームワーク」と、経済産業省による「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」、GRIスタンダードを参考にしました。GRI対照表はコーポレートサイトに掲載しています。

情報開示体系

WEB コーポレートサイト https://www.ebara.co.jp/

	財務情報	非財務情報
対話	決算説明会、中期経営計画説明会、IR DAY、株主総会、IRミーティング	ESG説明会、取締役会と投資家の対話
報告書	株主向け報告書、有価証券報告書、統合報告書、コーポレート・ガバナンス報告書	
WEB	株主・投資家情報ページ、ファクトブック	サステナビリティページ、ESGデータ

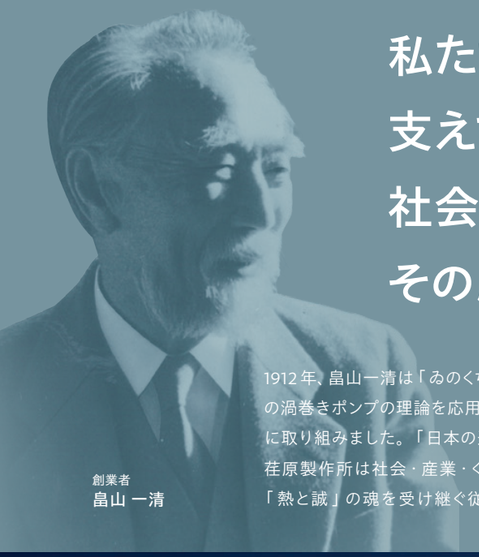
お問い合わせ先：コーポレートサイト「お問い合わせ」をご利用ください。
https://www.ebara.co.jp/contact/index.html

社名表記	「荏原」「当社」は、株式会社荏原製作所単体を示します。また、「荏原グループ」「当社グループ」は、荏原と国内外の連結子会社及び関連会社を示します。
対象読者	荏原グループと関わる全てのステークホルダーの皆様
報告対象期間	2022年12月期(2022年1月～12月)を主たる報告対象期間としています(対象期間と異なる場合は注釈などを入れています)。
報告範囲	株式会社荏原製作所、連結子会社112社、関連会社3社及び共同支配企業1社(2022年12月31日現在)より構成される荏原グループを対象としています。掲載するデータについて集計範囲が異なる場合、都度明示しています。
発行日	2023年7月31日

将来情報に関する留意事項
本報告書で開示されているデータや将来予測は、本報告書の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本報告書記載の情報及び資料のご利用は他の方法により入手された情報とも照合し、利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。本報告書を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

価値創造の仕組み

荏原グループの存在意義と歴史



創業者
畠山 一清

私たちの使命は社会・産業・くらしを支えていく製品・サービスを提供し、社会に貢献していくこと その原点は「熱と誠」

1912年、畠山一清は「ゐのくち式渦巻きポンプ」を世に広めるため、荏原製作所を創業。世界的に認められていた井口博士の渦巻きポンプの理論を応用し、水道用ポンプの国産化、災害に備えた水インフラの整備、水道の浄水装置の国産化などに取り組みました。「日本の近代化に貢献したい」「社会の課題を解決したい」という熱意と誠意、“熱と誠”を原動力に、荏原製作所は社会・産業・くらしを支えていく製品・サービスを提供し、社会に貢献していくことを使命としてきました。「熱と誠」の魂を受け継ぐ従業員が、コツコツと培ってきた“技術力”と“信頼性”。これらが私たちの成長の源です。

荏原の歴史

荏原グループは、社会インフラや産業インフラを支える事業を通じて、社会の要請にこたえ、成長を続けてきました。

1912年～
荏原グループの基礎づくり

創業以来、水道用ポンプの国産化、災害に備えた水インフラの整備、水道の浄水装置の国産化などにいち早く取り組み、日本の近代化に貢献しました。

1945年～
社会が求めた荏原の技術

食糧増産用のポンプや農地造成用ポンプを大量に生産し、戦後の国民生活の安定に貢献しました。また、電力不足を解消するため、超臨界圧の発電所に国産第1号機となるボイラ給水ポンプを納入しました。一方で、プラント用機器の輸出や海外拠点づくりを進め、海外進出への体制整備を図りました。

1980年～
社会に広がる荏原の技術

ダイオキシンを完全分解すると同時に残渣をリサイクルする次世代型ごみ処理装置としてガス化溶融炉を開発・実用化することに成功しました。また、今まで培ってきた技術を応用したドライ真空ポンプを開発し、精密・電子事業（現、精密・電子カンパニー）がスタートしました。

2000年～
成長に向けた体制構築

環境負荷低減のため、省エネルギー化・高効率化したポンプや冷凍機を開発するとともに、都市雨水排水に対応するためのポンプ技術を開発しました。また、最先端の微細化に対応し生産性を向上させたCMP装置や、めっき装置の新製品も開発しました。

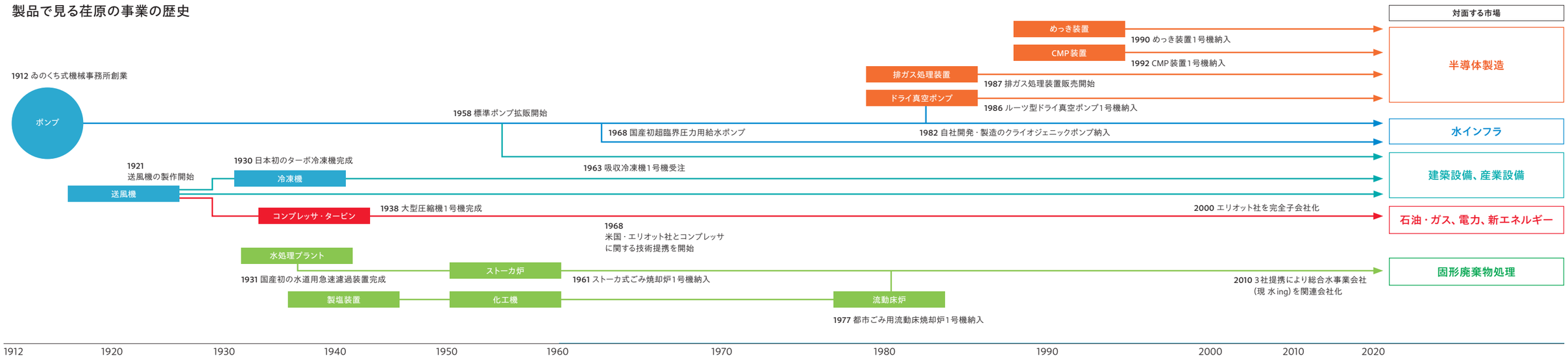
2010年～
創業100年を迎え、次の成長へ

事業の選択と集中により、財務基盤の改善と筋肉質な事業構造の確立を図りました。サービス＆サポート（S&S）の強化と海外拠点の拡大、IoT・AIを活用した自動組み立てラインの導入を進め、グローバル市場における競争力を高めています。また、コーポレート・ガバナンスの強化や人事制度改革を行い、ESG経営を進化させました。

2020年～
社会に貢献し続け、グローバルエクセレントカンパニーへ

「技術で、熱く、世界を支える」をスローガンとし、社会・環境価値を同時に向上させていくことで企業価値を高めます。2023年に製品別組織から対面市場別組織へと移行し、長期ビジョン達成に向けて加速しています。

製品で見る荏原の事業の歴史

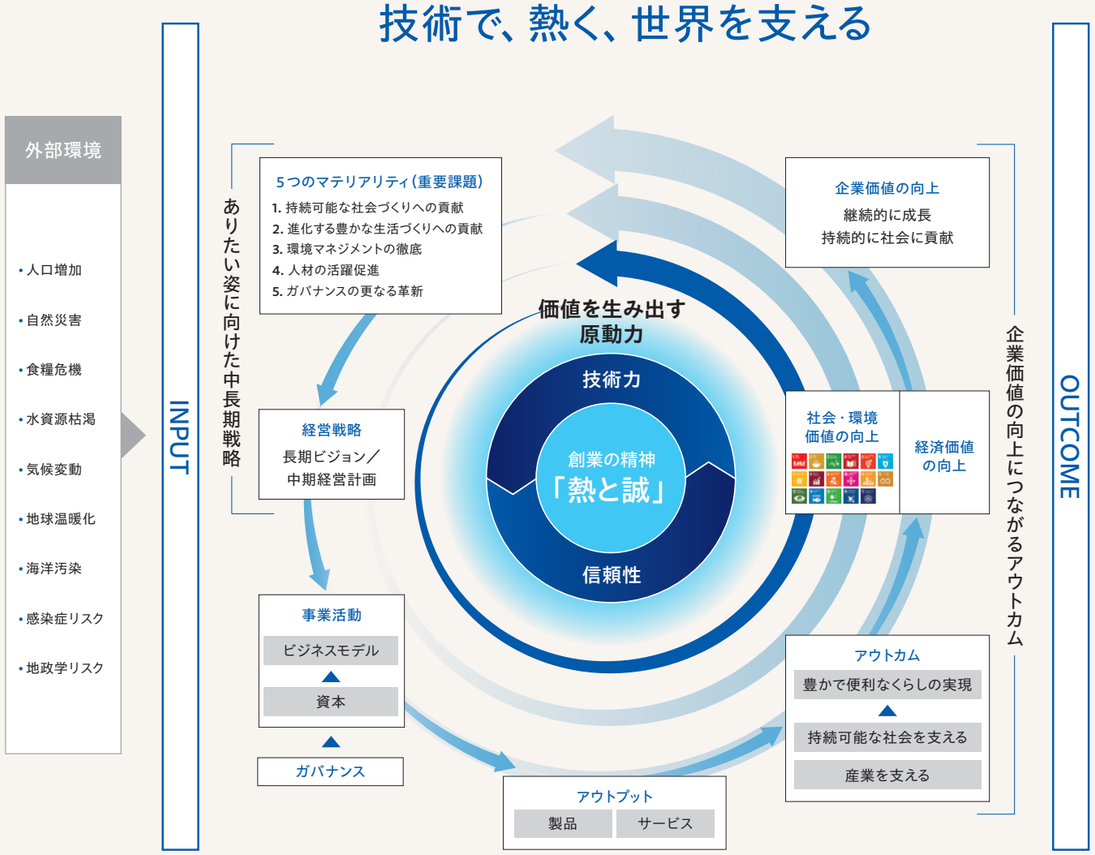


荏原らしさを基に、技術で、熱く、世界を支える

荏原グループは、創業以来110年以上にわたり、創業の精神である「熱と誠」を軸とする荏原らしさを持って、技術力と信頼性を強みに社会課題の解決に貢献してきました。
これからの100年も持続的に成長を続けていくために、技術力と信頼性をさらに強化し、将来のありたい姿の実現に向けた戦略を事業活動で実践し、世界を支えていく企業であり続けたいと考えています。

荏原が目指す姿、ありたい姿

技術で、熱く、世界を支える



INPUT

2022年12月末時点

財務資本

資本合計：	3,697億円
有利子負債：	1,193億円
信用格付：	R&I 発行体格付 A
成長投資：	576億円

製造資本

国内製造拠点：	5拠点
海外製造拠点：	20拠点

社会関係資本

スタートアップ出資社数：	4社
社会貢献活動支出：	792百万円

人的資本

連結社員数：	19,095名
うち海外連結子会社：	10,769名
従業員一人当たり研修投資（荏原単体）：	30,179円

自然資本

電力使用量：	182,043MWh
水使用量：	1,085㎥

OUTCOME

2022年12月末時点

財務資本

売上収益：	6,808億円
営業利益：	705億円
ROIC：	11.2%
ROE：	15.0%
配当総額：	177億円
連結配当性向：	35.2%
営業キャッシュフロー：	370億円
フリーキャッシュフロー：	△12億円
TSR（株主総利回り）：	+208.9%（10年） +11.9%（年率）

知的資本

特許出願件数（年間）：	
国内	271件
海外	434件

人的資本

女性従業員比率：	16.2%
女性基幹職比率（管理職相当）：	9.5%
外国籍従業員比率（荏原および国内グループ）：	1.9%
海外事業所のGlobal Key Position現地社員比率：	23%
グローバルエンゲージメントサーベイでのエンゲージメント指数：	79%

製造資本・社会関係資本

世界における標準ポンプ等の年間生産台数（建築・産業）：	130万台以上
オイル&ガス、化学、肥料市場向けカスタムポンプ（エネルギー）：	54,000台以上
ポンプの国内排水機場設置数（インフラ）：	1,000か所以上
国内外の廃棄物処理施設累計納入数（環境）：	495施設以上
CMP装置（精密・電子）：	3,000台以上（2022年1月時点）
ドライ真空ポンプ（精密・電子）：	20万台以上（2022年7月時点）

自然資本

GHG排出量 Scope1,2：	157千t
水排出量：	680㎥
廃棄物総排出量：	18,351t
マテリアルリサイクル率：	97.5%

価値創造の仕組み

荏原が社会に生み出す価値

荏原グループの製品は、世界の社会インフラを支え、安全・安心で豊かな生活を実現するために様々な場面で活用されています

建築・産業カンパニー

1 給水ユニット

ビルやマンションへ
生活用水を届ける

ビルやマンションなどの建築設備や工場設備などにおいて、安定した水供給を担う重要な機器です。

2 ファン

室内の空気を新鮮に保つ

気体を送るための機械です。ビルやマンションなどの室内に新鮮な空気を送ったり、汚れた空気を外に出す「換気」に使用されています。

3 冷凍機

ビルや大型商業施設、
工場などを快適な
温度に保つ

大型商業施設や工場に空調用の冷水を供給し、建物全体を冷やしたり暖めたりしています。冷熱環境の最適化によるコスト削減や、省エネルギー・CO_2削減に貢献しています。

エネルギーカンパニー

4 ボイラ給水ポンプ

発電を陰で支える

火力発電では高圧蒸気でタービンに動力を与え、タービンと直結した発電機が回転することで発電しています。ボイラ給水ポンプは、ボイラへ高温の水を送り込むことで、この高圧蒸気をつくり出しています。

5 コンプレッサ・蒸気タービン

世界のエネルギー、
石油化学プラントの
心臓部

石油精製プラントや石油化学プラントなどの心臓部にあり、原油、天然ガスなどから発生するガスを圧縮しています。

6 クライオジェニック製品

LNGを安全に輸送する

マイナス162℃という極低温の液化天然ガス（LNG）の輸送・保管に使われるポンプ、液化工程で使われるエキスパンダーで高い技術と安全性が求められます。

インフラカンパニー

7 農業用ポンプ

田畑を水で潤す

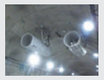
農業灌漑施設で送水を担う重要な設備であり、農業水を安定的に供給しています。

8 排水ポンプ

台風や集中豪雨から
街を守る

大雨の際、住宅地や農地などへの水害を防ぐため、雨水を川や海に強制的に排水します。

9 送風機



トンネル内を換気する

トンネル内の空気環境の維持及びトンネル火災時の避難環境確保などのため、トンネル換気設備を納入し、精度の高い換気制御を行っています。

環境カンパニー

10 廃棄物処理施設

廃棄物を安全に処理しくらしの衛生を支える

廃棄物処理施設の設計、建設から運転管理、メンテナンスまで一貫して手掛け、安全・安心な施設の提供と安定した稼働によりくらしの衛生を支えています。

11 バイオマス発電施設

木質バイオマス発電を通じてCO_2削減に貢献

多種多様な燃料を安定燃焼できる内部循環流動床ボイラの特長を活かした木質バイオマス発電施設の建設、運転管理を通じて、再生可能エネルギーの普及と気候変動対策に貢献しています。

精密・電子カンパニー

12 ドライ真空ポンプ

半導体製造に必要な
クリーン環境を
最適な形で実現

半導体製造工程などで真空をつくり出すために使われています。

13 排ガス処理装置

工場で使用される
有害ガスを無害化する

半導体製造工程などで使用される有害ガスを、工場の外に排気する前に無害化します。

14 CMP装置

ナノレベルの
研磨技術で半導体
製造をサポート

半導体ウェーハの表面を砥液で研磨し、ナノメートルレベルの平坦化を可能にします。

15 精密チラー

サブファブスペースの
効率的な利用を実現

半導体製造工場の床下環境（サブファブスペース）に設置され、半導体製造装置の温度コントロールに使用されます。